

プロトコル変換装置 (μ PAD)

公衆パケット網を介した端末・コンピュータ間通信技術確立の一環として、ミニコンピュータなどを用いたプロトコルマシン実験システムを構築し、PAD (Packet Assembler and Disassembler) プロトコルの研究を進めてきたが、1981年(昭和56)、これらのPADソフトウェアをベースとして、さらにユーザー宅内PADとしての可能性を探るため、マイクロプロセッサを用いたプロトコル変換装置(μ PAD)を開発した。 μ PADは、階層化プロトコルに対応したソフトウェアモジュール構成の採用で、ソフトウェアに拡張性を持たせるとともに、宅内装置とするためマイクロプロセッサを導入して、小型・軽量化を図った。また、操作を単純なものとし、システム診断機能を導入して保守を容易にするなどを考慮した。研究開発で得られた諸成果については、KDDにおけるパケット交換システムの設計やCCITT標準化活動に生かされた。

出典：KDD社史